

報告事項

平成23年度PTA日韓交流事業について

平成23年度韓国江原道とのPTA交流について、別紙のとおり報告します。

平成23年10月24日

鳥取県教育委員会教育長 横濱純一

平成23年度PTA日韓交流事業について

家庭・地域教育課

1 趣 旨

韓国とのPTA関係者との交流の促進を図ることにより、相互理解と友好を深め、子どもたちの健全育成に向けた活動をより一層発展させる。

2 期 間

平成23年9月27日(火)～30日(金)

3 構 成

団 長 鳥取県高等学校PTA連合会副会長 1名

副団長 鳥取県PTA協議会副会長 1名

団 員 鳥取県高等学校PTA連合会2名、鳥取県PTA協議会2名
事務局および通訳3名 計9名

4 概 要

9月28日(水)

韓国江原道教育監表敬訪問

・江原教育について

学校運営委員会との意見交換

・学校運営委員会について

春川(チュンチョン)女子中学校訪問

・施設見学、意見交換会

江原道幼児教育振興院訪問

・施設見学、意見交換会

9月29日(木)

綿温(メンウォン)初等学校訪問

・施設見学、5年生の授業参観、意見交換会

文化体育施設見学

・アルペンシア(2018年冬季オリンピック開催会場)

交流の様子については、別添資料のとおり。

(別添)

1 韓国江原道教育監表敬訪問

江原道と鳥取県の交流再開を心から喜んでおられ、教職員や児童生徒、保護者交流が盛んになることを期待しておられた。

江原教育の目標である“幸せな学校、共にする江原教育”実現のための5大核心推進事業として取り組まれている、親環境無償給食の実施、高校入試制度の改善、革新学校の運営、生徒の人権を改善、教師の専門性を強化、などについて詳しい説明を受けた。



江原道教育庁

2 学校運営委員会との意見交換

教師・保護者・地域住民等から構成される学校運営委員会は、教育課程や教科書選定等について審議する公立、私立を問わず必置の法定機関であり、日本のPTA組織とは性格が異なるものの、学校運営において、家庭や地域の関わりが重要であるという共通認識のもと、有意義な意見交換ができた。



学校運営委員会

3 施設訪問の概要

(1) 春川(チュンチョン)女子中学校

学校の特色は、共同体意識を養う人性教育、幸せな教育文化づくり、愛溢れる暖かい福祉の具現、Exciting English World 運営を通じた英語能力の強化の4点である。特に英語教育に関しては、英語専用ハンバーガーショップスタイルの教室などが3教室あり、ネイティブ教師による実用英語能力の向上が図られている。



英語専用教室

(2) 江原道幼児教育振興院

就学前教育が重要であり、そのために必要な幼児教育に関する専門の教員研究・研修支援施設として、2010年に開設された新しい施設である。

施設は、研修棟以外に、幼児が歴史や文化の映像を視聴するコーナー、積み木や読書ができるフロアー、映像コンテンツを作成するスタジオなど、幼児が一日過ごせる2階建ての施設があり、道全体からの利用も多く、稼働率も高いようであった。

幼児教育担当者が研修する施設内に幼児が活動している場所があるということは、研修や研究の場面で非常に有効であり、教材開発や情報提供の検証もできる、多元的な施設となっていた。



発電体験スペース



屋外活動スペース

(3) 綿温(メンウォン)初等学校訪問

春川より車で2時間ほどかかる農村部の小学校で、2007年は児童数が52名であったが、田園教育(地域を活用した教育)と放課後学習の充実により、都市部からの入学者が増え、今年度は151名となった。

地域にあるスキー場と連携してスノーボードの競技力を向上させたり校地内の農場での作農体験、親子でバンドやゴルフレッスンをするなど、地域と家庭を巻き込んだ教育が展開されていた。

パソコンは1年生段階で全員に無償貸与されており、個人学習やグループ学習の際に、鉛筆やノートと同じ道具として使用している。参観授業では、教室前面のホワイトボードに組み込まれた大型ディスプレイと個人パソコンの使い分けがスムーズであり、情報教育の充実ぶりが目立っていた。



大型ディスプレイによる一斉視聴



グループによるまとめ作業